

## 9月定例会 報告

9月2日(金)~9月29日(木)の28日間

## 中島りゅうじ 一般質問

慎重に審査した結果、上程された議案や決算承認案等については全て賛成しました。

### 子どもにやさしい市政をめざして

#### 子ども目線の施策推進

**Q.質問** 子どもの声を聴くことや、子どもの目線に立って豊田市の施策を推進することは、子どもの権利を保障する上でとても重要だと思うが、豊田市の施策で何か工夫していることは？

**A.答弁** ▶ 豊田市では、豊田市子ども条例に基づき、子ども会議を開催し、子どもにやさしいまちづくりについて、子ども達の意見を聴く場や、子ども達の社会参加の場としている。

▶ 第3次豊田市子ども総合計画では、子どもにとって最善の利益となっているかどうかという視点で、事業の実施・実績管理を行っている。

▶ 具体的には、事業を実施する庁内各課に対して、子どもの視点での配慮・工夫がなされているかを確認している。

▶ 特に、子どもが当事者となる事業については、子どもの意見を事業に反映させる必要性について理解してもらうとともに、子どもの視点を大切に事業を進めてもらうよう呼びかけている。

**Q.質問** 子どもの意見がより聴かれ、それが活かされる豊田市にするために、今後どのような取組が必要だと考えるのか？

**A.答弁** ▶ 子どもが当事者となる事業については、直接子どもの意見を聴き、事業に反映する工夫をすることが重要であると考えている。

▶ 例えば、子ども総合計画の掲載事業の中では、青少年相談センターが実施している、不登校児童生徒の社会的自立を支援する「パークはあとラウンジ」の各種体験活動において、参加児童生徒による振り返りをもとに、その後の実施内容や方法を考えるといった取組をしている。

▶ 市の担当課が子どもの意見を聴く機会を増やすことも重要であると考えている。

▶ 例えば、市内の高等学校生徒が豊田市の課題を考える活動において、庁内各課からテーマを募集し、高校生が課題解

決に向けたアイデアを発表したところ、当該アイデアが担当課の取組として実現した例もあった。

▶ このように、担当課が子どもの意見を聴く機会が増えることで、豊田市の施策事業に子どもの意見が活かされる可能性も広がっていくため、こうした機会を増やす取組を市としても積極的に進めていきたいと考える。

#### 中島りゅうじの要望・意見



子どもたちの意見やニーズを把握した上で、特に子どもと直接にかかわる事業には反映させてほしいと思います。

子ども目線に立った施策を着実に推進することにより、子どもにやさしい市政につながり、さらに大人にとってもやさしい市政につながるのではないかと期待します。



#### 子どもの権利保障の取組

**Q.質問** 子どもの権利保障に関する啓発活動について、多くの市民に知っていただくための取組は？

**A.答弁** ▶ 子どもの権利相談室のリーフレットや相談カードを市内の小・中・高等学校に配布しているほか、「子どもの権利相談室だより」を年3回発行し、市内小中学校に配布している。

▶ 子どもの権利学習プログラムを実施する際に、子どもの権利啓発と併せて子どもの権利相談室についても紹介し、周知を図っている。

▶ 子どもの権利相談室については、「子どもにとって親しみやすい名称にすると良い」という子どもからの意見を元に、子ども達から愛称を募集した。

裏面へ続く

